



バラ満開 戸市亜熱帯動植物園のバラ園で満開のバラを楽しむ来園者

広報  
No.668

# させぼ



広報させぼ 編集長  
「キューちゃん」

## 特集 佐世保を表現する

2 ~ 7 p

### 今月の主な内容

- 快水浴場百選、お茶の間トークなど 8 ~ 11 p
- イベント、施設だより 12 ~ 15 p
- 市民の広場 16 ~ 17 p
- 歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド 26 ~ 27 p
- 九じろうの取材日記 28 p



PUBLIC RELATIONS SASEBO

## 九じろうの 取材日記

### 早岐茶市



出店が並ぶ早岐瀬戸の海岸通り

早岐茶市は、早岐瀬戸の海岸通りで毎年5月上旬から6月上旬まで、縁起の良い「8」の付く日を中心に3日間ずつ4回開かれます。それぞれを初市、中市、後市、梅市と呼びます。



買い物客でにぎわう出店

海の幸、山の幸が  
盛りだくさん

早岐は、昔から港があり、水陸交通の要所としてたくさんの人や物が集まる場所でした。そのため、自然と市が開かれるようになりました。  
早岐茶市の歴史は、四百有余年といわれ、もともと山に住む人と海辺に住む人が、山の幸、海の幸を持ち寄り、物々交換をしていたことから始まった珍しい市です。現在では、主に現金取引になりましたが、昔ながらの物々交換も行われています。瀬戸沿いに三百軒ほどの出店が並び、お茶をはじめ、海産物、陶器、竹細工、野菜、苗物などが販売されます。



福留武親さん

後市最終日の5月29日、早岐茶市を主催している早岐商工振興会を訪ね、会長の福留武親さんにお話を聞きました。

買う人、売る人  
たくさんの方が集まります

ことしは、開催日に雨が降った日もあり人出が少なくなりましたが、それでもたくさんの方に来ていただきました。  
市内や周辺地域をはじめ、遠くは佐賀県、福岡県からもお客さんが訪れています。出店は、県内をはじめ、佐賀・福岡・大分・熊本各県から集まります。  
お客さんも店を出す人も、ここへ集まる人は常連が多く、早岐茶市が皆さんの交流の場となっています。

早岐茶市を文化として受け継いでいきたいと思っています

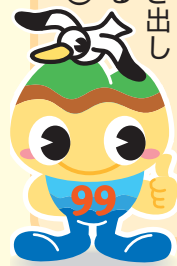
わたしも子どものころから早岐茶市に慣れ親しんできましたので、この時期になるとワクワクした気分になります。

昔は、茶市に合わせてサーカスや見世物小屋なども催され、大変なにぎわいでした。  
今でも「茶市の風に吹かれる」とその年は風邪を引かない」と言い伝えられているように、多くの人々が毎年暇を見つけて茶市に出掛ける習慣があります。

茶市を開催するためには、交通規制や駐車場の確保、苦情処理など苦労もありますが、今後も早岐茶市独特の雰囲気大切に、「文化」として受け継いでいきたいと思っています。

### 編集長から「一言」

今月号の特集のテーマは「佐世保を表現する」。わたしも何か表現してみたいと思います。買って以来一度も使っていないスケッチブックと色鉛筆を引き出しから取り出しました。あれから一カ月……。白紙のままのスケッチブックと色鉛筆は、また引き出しの中へ。表現するのは難しい。(N)



広報 させぼ

平成18年7月1日発行

佐世保市役所企画調整部秘書課広報係 TEL0956-24-1111 FAX25-2184

〒857-8585(市役所専用)長崎県佐世保市八幡町1-10 http://www.city.sasebo.nagasaki.jp 印刷/中央印刷有限公司



この広報させぼは古紙配合率100%の再生紙と大豆油インクを使用しています。